

幼児期の終わりから小学校入学への「円滑な接続」に向けたくまとスタンダード

入学当初の教育においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して学んできた児童を戸惑わせることなく、主体的に自己を発揮しながら学びに向かえるようにすることが大切です。つまり、小学校教育は、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえたものにするのが大切であり、“0からのスタートではない”ことを理解・実践しなければいけません。

このたび、接続の時期に必要な取組を「幼児期の終わりから小学校入学への『円滑な接続』に向けたくまとスタンダード」としてまとめましたので、それぞれの時期に必要な取組を各学校において確実に実施するようお願いいたします。



園等と小学校等との取組



具体的な取組のポイント

引継ぎ・連絡会

配慮を必要とする幼児について、園での幼児の様子、育ててきている力、保育者の援助の在り方等についての引継ぎ

指導要録の抄本（幼稚園幼児指導要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録・認定こども園こども要録・保育所児童保育要録の写し）の受け渡し

引継ぎ

入学前に、再度引継ぎ事項の確認

スタートカリキュラムの実施

詳しくは、スタートカリキュラムスタートブックを参照。



情報交換会

（入学後の様子について）

児童の様子や実施したスタートカリキュラム、園・所等の教育・保育計画等についての意見交換



スタートカリキュラムの見直し

年間計画に交流活動や保育・授業の相互参観等を位置付け、計画的に実施し、お互いの教育を理解することが大切です。接続のための連携を図りましょう。



引継ぎの主な視点

- 育ててきている力（できるようになっていること）
 - ※「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を基に話し合うことも有効
- 園等での幼児の様子やこれまでの支援
- 配慮を必要とする幼児について
- 保護者対応等について
- 園等から小学校へのお願い
- 小学校等から園等へのお尋ね
 - 重要** ※受け入れる側の小学校等の園等への積極的なかわり
- 引継ぎ内容を小学校の全職員で共有
- 新1年担任への確実な引継ぎ

スタートカリキュラム編成のポイント

- ① 実際に園等を訪問し教職員と意見交換を行い、幼児期の子どもを理解する。
 - ② 幼児期の教育で育まれた資質・能力を全職員で共有する。
 - ③ 期待する成長の姿を共有する。
 - 重要** ※①～③を踏まえて、スタートカリキュラムを編成・実施すること
- 実施後の気づきを記録

情報交換会の主な視点

- 授業を参観した園の教職員と、児童の姿や指導の在り方について気付いたことを情報交換
- スタートカリキュラムを実施しての気づき等について意見交換

スタートカリキュラム見直しのポイント

- ① 園等との情報交換会での意見をもとに見直す。
- ② 合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定の観点から、単元配列表や週案、これまで蓄積してきた資料を基に見直す。
 - ※次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、園等の教職員と合同研修を実施する。

P

3月上旬

3月中旬

3月下旬

D

4月
5月

C

6月
9月

A

1月
3月